

第2学年 道徳科学習指導案

令和8年10月6日（火）第5校時

- 1 主題名 役割と責任 内容項目 [C よりよい学校生活、集団生活の充実]
- 2 ねらい 立場が異なる人々の思いや役割について多面的・多角的に捉える活動を通して、集団の意義や自分自身の役割について考え、責任を自覚して集団生活の充実に努めようとする実践意欲を高める。

教材名 「コロナ禍で気付いたこと」

（出典：彩の国の道徳「未来に生きる」埼玉県教育委員会）

3 主題設定の理由

（1）ねらいや指導内容について

中学校学習指導要領内容項目C「主として集団や社会との関わりに関すること」の「よりよい学校生活、集団生活の充実」を受け、主題を設定した。

2019年に発見されてから、新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に世界中に広まった。学校現場への影響も大きく、休校や分散登校、様々な行事の中止や縮小等を余儀なくされる事態となった。本学級の生徒は小学2年生の頃に最も強くコロナ禍の影響を受けており、生活の変化や人との接触の制限によって、思うような学校生活を送れない時期を経験している。このことをふまえ、本教材を通して、自らの所属する集団の目的や意義を理解するとともに、個人の力を合わせてチームとして取り組んでこそ達成できるなど、集団の在り方について多面的・多角的に考えられるようにしたい。また、社会全体における人々の立場や役割の違いと責任について考えさせ、自身の生活に生かそうとする態度を養いたい。

（2）これまでの学習状況及び生徒の実態について （略）

（3）教材の特質や活用方法について

本教材では、複数の立場から、コロナ禍での生活について述べられている。本文では中学生の視点で飲食店の経営とクラブ活動について語られ、追加資料においては、大学生、会社役員、主婦、ボランティアという様々な立場からコロナ禍の苦労や工夫が語られる。身近な視点と学校から離れた視点の2つが示されていることで、社会全体に目を向けて思考を働かせることができると考える。

授業において、導入ではあえて深入りすることを避け、驚きと興味関心を与えることを意識する。学習課題については、学習活動の途中で示すことで、生徒たちの心情や理解に即したものとなることをねらう。学習課題に基づく発問としては、本時のねらいについて意欲的に考え議論するために、生徒の実態に近いケンタの立場で考える投影的な発問を設ける。終末では、教師の経験に基づく説話の時間を設けることで「役割と責任」について、身近なものとして改めて考えさせたい。

4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 コロナ禍について知っていることを発表する。	・マスクをするのが当たり前だった。 ・ワクチン接種があった。 ・飲食店に卓上パーテーションが設置されていた。 ・休校になった。 ・分散登校になった。	・展開で考え議論するために、あえて深入りせず、興味・関心を持たせる程度に留める。
展開 (前段)	2 教材「コロナ禍で気付いたこと」を読み、各発問について考える。		・カナコもケンタも自分のできること(役割)を見つけようと頑張っていることに共感させるとともに、中学生という立場である2人にはどのような責任があるのか考えさせる。
	①カナコは自分の立場でどんなことができると考えているだろうか。 (共感・分析) (補助発問) 父はどんな気持ちだっただろうか。 (共感・投影)	・そうじ等、自分でもできそうなことを手伝う。 ・再開に向け、クラスターの発生を防げるようなアイデアを出す。 ・節約する。 ・再開に向け広告を作る。	・「責任」という観点から、実現性についても意識させる。 ・「中学生」という立場であることを念頭に置き、逸脱しないようにする。
	②ケンタは自分の立場でどんなことができると考えているだろうか。 (共感・分析) (補助発問) 自分がケンタの立場だったら、どんな気持ちになっているだろうか。 (共感・投影)	・最後の大会なので、何とか実施できるようにコーチにお願いする。 ・マスクをして試合をする。 ・自分たちで集まってコートを借り、引退試合だけでも実施する。	・実現が難しいものや綺麗事が意見として挙がってきた際には、状況をより自分事として捉えられるよう問い返す。
	3 学習課題を立てる。 社会という集団の中でどのように生活することが大切か。		・学習活動2を踏まえ、生徒の問題意識を生かして設定する。
	4 自分がケンタの立場だったら、どうするだろうか。 (投影)	・チーム内、もしくは地域内に限定した小規模な引退試合の場を設けるよう提案する。 ・真剣に練習に取り組む姿を先輩たちに見せる。	・学習活動2②と近い視点での学習活動となるが、学習課題の設定を経て、より「社会」という集団を意識したものとなることに期待する。

（後段）	5 私たちが社会という集団で暮らしていく中でどのようなことが大切かについて考え、書く。	・授業を振り返り、ねらいとする価値について考え、書く。	・「役割」と「責任」について意欲的に考えることで、自己の変容や思考の深化が見られる生徒を机間巡視で確認しておき、全体の中で共有(指名)する。 ☆自分が社会の一員として生きていくにあたり、どのようなことが必要で、それは実現及び継続が可能なのかという視点で「責任」や「役割」について考え、整理している。
終末	6 教師の説話を聞く。	・集中して教師の話聞く	・新型コロナウイルス感染症が流行した令和2年度の学校現場について、教師の経験談を語る。

在籍生徒数38名

5 他の教育活動との関連

事前指導	教材の特性を考慮して実施しない。
道徳科	教材名「コロナ禍で気付いたこと」 集団としてよりよい生活を送るために必要なことを考え、社会の一員としての自覚をもって生活しようとする意欲を育てる。
事後指導	本時の発問や振り返りにおける多様な意見を、学級通信等を通じて共有する。
家庭との連携	学級通信を通して本時の取組を紹介するとともに、保護者を含めた様々な人々の努力によって今の生活があることを話題にしてもらう。

6 評価の観点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・様々な発問の工夫(共感・分析・投影)が、ねらいとする価値に迫るために効果的であったか。
- ・導入ではあえて深入りしなかったことが、展開において具体的かつ主体的に考えるための工夫として効果的であったか。
- ・自分が社会の一員として生きていくにはどのようなことが必要なのか、自分事として意欲的に考えるにあたり、学習課題を学習活動の途中で示す工夫は効果的であったか。

【道徳的諸価値について】

- ・学校現場における実体験に基づく説話をを用いることにより、自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めることの大切さについて、自分との関わりを意識して考えることができたか。

7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・自分が社会の一員として生きていくにあたり、どのようなことが必要で、それは実現及び継続が可能なのかという様々な視点で「責任」や「役割」について考えている。

【道徳的諸価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・自分が社会の一員として生きていくにあたり、どのようなことが必要で、それは実現及び継続が可能なのかという視点で、ねらいとする価値について、自分の考えを整理し書くことができる。

8 板書計画

コロナ禍で気付いたこと

◎コロナウイルスについて知っていること

マスクをしている人々の写真

ワクチンを受ける人々の写真

三密の図

①カナコは自分の立場でどんなことができるかと考えているだろうか。

・
・
・
・

卓上パーティーの
写真

②ケンタは自分の立場でどんなことができるかと考えているだろうか。

・
・
・
・

甲子園
中止の
号外
(神戸
新聞)

社会という集団の中でどのように生活することが大切か。

☆自分がケンタの立場だったら、どうするだろうか。

・
・
・
・